



ウキウキ！ワクワク！クリスマスを感じながら

花組 尾川

花組さんは、初めてのお月見会、初めての運動会、初めての登山遠足、・・・とたくさん行事を経験した2学期でした。そして、18日は初めてのクリスマス会も待っています♪たくさん行事を経験する中で、子どもたちは一段と心も体も大きくなって、好きな遊びの幅も広がってきました。

12月を迎える前に、幼稚園のクリスマスツリーを出しました。花組さんのツリーは、少し小さめのツリーです。ツリーを見た瞬間、Aちゃんが「クリスマスツリーだー！飾りつけしないと、寂しすぎでしょ」Bくん「飾りないやん！僕が、何か飾りつくろうか？」Cちゃんはすぐに赤と白の折り紙を持ってきて「この色で（飾り）つくったら？」などツリーへのイメージを思い思いに話します。その日のお帰りの集まりの時に、クラスみんなで飾りつけをしました。サンタの飾りや小人やソリ、プレゼントの飾りなど様々な形の飾りがあり、自分のお気に入りの飾りを選んで、飾りつけしました。

クリスマスツリーが華やかになると、子どもたちは次の日から、一気にクリスマス気分です♪おままごとをしていたDちゃんたちは、「今日は、クリスマスの日だからパーティーよ！」と保



育室の棚に飾ってあるツリーを自分たちのおうちに飾ってクリスマスパーティが始まりました。保育者がサンタの帽子をつくって、「メリークリスマス！」とおうちに遊びに行くと、Bくんが「先生待って！サンタさんは一人で来れないよ。トナカイと一緒に来るんよ」と話します。保育者が「そうなんだね。誰かトナカイになってくれないかな？」と言うと、「僕なるよ。でも、角がないからつくらなきゃ！」とBくん。角ができると、近くにいたFちゃんたちも、「私はサンタさんの帽子をつくりたい！」「私も角が欲しい！」とこの日はサンタさんやトナカイのイメージを膨らませながら、つくるので終わりました。次の週になると、星組サンタやトナカイがソリに乗ってプレゼントを届けにきました。「僕もソリをつくる！」とBくん。そのイメージが周りの友達にも広がり、みんなで「空を飛ばすソリをつくらう！」ということに。「これは？」「それじゃ空飛んでない。」「あっそれならいいね！」と友達と保育者といろいろと試してみました。

友達を感じ真似てみたり、同じように試してみたり、友達と一緒に遊ぶことが楽しくなっている花組さんです。



ずっと続いている しっぽ取り

風組 中原

5月末、星組さんがしていたしっぽ取りに仲間入りしたことがきっかけで始まった風組のしっぽ取り。たくさん子どもたちが遊びに出たり入ったりしていた時期は7月ですが、特にしっぽ取りが気に入った子どもたちの中では、今でもずっと好きな遊びとしてしっぽ取りが続いています。ずっとしっぽ取りを楽しんできたものの、最近あまりしっぽ取りをしていないAくんに、保育者が「そういえば、最近しっぽ取りしなくなったね」と言うと「だって、しっぽ取れないんだもん」とAくん。Aくんの言葉は、保育者にとって少し予想外で、心に染みた言葉でした。

思い返せば、しっぽ取りを始めたころは、星組さんと一緒にしっぽ取りができるということや、腰にしっぽを付けているということが、楽しかった風組さん。そして、繰り返し楽しむうちに、少しずつ走ることが楽しくなり、初めてしっぽを取ることができてからは、相手のしっぽを取ることが楽しみになっていきました。しっぽを取るために自分なりに試行錯誤をし、多くの子どもたちがしっぽを取った取られたと言い合う中で、なかなかしっぽを取ることができないAくんでしたが、Aくんは誰よりもしっぽ取りをすることを楽しみに登園し、毎日しっぽ取りを楽しんでいました。保育者は、しっぽが取れないしっぽ取りを、これほどまでに長い期間、毎日繰り返し楽しむAくんから目が

離せなくなっていました。Aくんに聞いてみても、なかなかこれだという解答には辿り着けませんでした。Aくんがしっぽ取りを楽しむ姿から、しっぽを取ることでしっぽ取りの楽しさではないということを実感しました。そして、しっぽ取りを始めて5か月目にして、「しっぽを取りたい」という気持ちになっているAくん。Aくんのように一つ一つのことをじっくり味わう楽しみ方もあれば、早々にしっぽを取るということにねらいを定めてその試行錯誤を重点的に味わう楽しみ方もあるということを改めて感じた瞬間でした。一人一人が感じる遊びの楽しさは、それぞれで違っているということ、それぞれのタイミングで、やりたいことができることの大切さを実感しました。

しっぽ取りや鬼ごっこを通して、仲良しの友達との関係が一段と深まったり、仲良しの友達とだけではなく、たくさん友達との関わりが生まれたり、友達関係が深まったり広がったりした2学期でした。いつもの友達関係では起きないようなことで、気持ちのぶつかり合いがおきることもありましたが、その都度向き合ってきた風組さん。友達の気持ちに気づいてどうしたらいいのかと考えようとする優しさが膨らんだ2学期になりました。



明日の「楽しい！」に繋がるように

星組 I 田中

あっという間に12月。運動会後、「仲間」という意識が強くなってきた子どもたちに、大勢の人数で遊ぶ楽しさをもっと味わってほしいと思い、ケイドロや宝取り、ドッジボールなど星組全員で遊ぶ機会をつくりました。初めはそれぞれが逃げたり、追いかけて楽しんでいましたが、次第に仲間が集まって作戦を立てたり、捕まった友達を助けるために自分がおとりになったり・・・友達のことを思いながら楽しんでいる姿に心が温かくなりました。宝取りをしていると「宝の所までは行けるのに、自分たちの陣地に宝を持ち帰れない」という泥棒の悩みが出てきたのでお帰りで話し合いました。「おびきよせるのは？」「仲間にパスをしたらいいんよ」「パスって聞こえないから、大きい声で言ったらいいと思う」「3つに分かれて行けばどう？」とこんな意見が次々に出てきます。ホワイトボードに大庭の絵を描くと、磁石を使って一生懸命説明する姿も。「じゃあ明日この作戦でやってみよう！」と次の日やってみました。しかし思うようにはいきません。「昨日の作戦やってみてどうだった？」と聞くと、「パスを出したかったけど、出せなかった」とAちゃん。すると「だって泥棒の人たち、ここに固まっているからすぐにタッチできるんよ」と警察だったBくん。「パスって言ってるのに全然聞いてなかったよね」とCくん。警察はお見通しということでしょうか

😊警察から見た意見を次々に話し始めました。本当によく相手の動きを見ているなぁと保育者は感心。バレーではDくんから出た「点数がわからなくなる」という言葉から、お帰りで話し合っ「それなら得点板をつくらう！」ということになりました。「本当の試合はペラってめくったら点数出てくるのがあるんよ」「それなら三角の（土台）がいるね」「審判がいるね」と自分たちの経験を元に話していました。次の日、なんとEくんが得点板を家で作ってきて来てくれて、その日以来、それを使ってバレーを楽しむ姿が見られました。お帰りの振り返りは、その日にあった楽しかったことを紹介し合ったり、みんなで考えたり共有したりして次の日の「楽しい！」に繋がる時間になればと大切にしている時間の1つです。この時間に、こんなにも自分たちで意見を出し合っ、友達の思いも聞きながら自分の思いも伝えている姿に成長を感じました。そして、子どもたちの話を聞きながら、なんて楽しいだろう！とワクワクした2学期でした。



「クリスマスのおはなし」ができるまで

星組 中野

もうすぐ子どもたちが楽しみにしているクリスマス会です。今年のクリスマス会で星組さんがオリジナル劇を披露してくれたことを覚えている子どもたちも多く、自分たちも“やってみよう”という気持ちになっていました。そこで、どのような話にするか、さっそく星組みんなでの作戦会議がスタートしました。作戦会議では、「サンタさんとトナカイが出てくるよ」「泥棒がプレゼントを盗む話がいい」「お話を読む人もいたよね」など、これまで見てきたことや思い付いたアイデアなど口々に話す子どもたち。たくさんアイデアが出てきた分は翌日に持ち越し！になりました。すると作戦会議の翌日、「おうちでお話書いてきた！」とAちゃん。紙にストーリーを書いてきてくれました。Bくんは「ぼくは、やっぱりポケモンになりたいな」など、自分のやってみよう役への思いを口にします。そんな思いを伝え合う作戦会議を積み重ねていく中で、お話の大きな流れができ、したい役や必要な物も続々と出てきました。サンタさんが配るプレゼントづくりやソリなど・・・その役でなくても、みんなのお話に必要なものとして、自分たちでつくっていきます。

ある日、みんなで劇をした後に素敵だなと思ったところを話し合いました。「泥棒が倒れるところがおもしろかった」「トナカイがサンタさん運ぶところ、頑張っていたよね」など・・・互いの素敵ところを伝え合う中で、嬉しそうな照れくさそうな笑顔が見られました。改めて言葉にして伝えられると照れくささもありませんが、仲間の中で認められることは、とっても嬉しいことなのです。また、「最後に歌うのはどう？」など、もっと劇をよくするためのアイデアを出す姿もありました。思いを伝え合いながら、みんなで一つの話をつくり上げていく楽しさを味わっている子どもたちです。クリスマス会では、花組や風組の子どもたちに披露することを楽しみにしています。サンタさんも見てくれるかも！？素敵な会になりますように☆

